

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270500665		
法人名	社会福祉法人翔寿会		
事業所名	グループホーム箕望の丘		
所在地	長崎県大村市池田2丁目1163-24		
自己評価作成日	平成21年10月16日	評価結果市町村受理日	平成22年2月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構		
所在地	長崎市桜町5番3号 大同生命長崎ビル8階		
訪問調査日	平成21年11月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>利用者様の尊厳を重視し、職員と一体となり利用者様は自分のペースで安心して毎日暮らせること。 利用者様と職員の関係が良好なこと。 施設の内外ともに環境を整えること。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>ホームは小高い丘の上であり、大村を一望できる場所に開設されている。建物は設計段階から利用者の暮らしを重視し、ホーム内では利用者がゆっくりとくつろぎ、穏やかな生活を送れる環境を整えている。また、広々とした庭には季節の花や野菜が栽培されている。定期的に運営推進会議を開催し、ホームからの情報発信だけでなく、自治会との繋がり、地域住民との交流と回を重ねる毎に内容が充実してきている。法人内での研修は多く全職員が参加でき、職員も知識や技術の習得に意欲的である。全体会議や個人ケアカンファレンスなど情報共有、意見交換が十分にされ、お互いが信頼しチームで利用者を見守り、利用者の自尊心を尊重した生きがいのある楽しい生活を支援することを目標に実践されている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスとしての理念を職員全体で理解し、個々のケアの目標の実現に向けて、ミーティング等を通して情報の共有に努めている。	”あなたらしく、私らしく、地域のひととともに、生き生きと楽しい生活”の理念を全職員が理解し共有している。月1回の会議や朝夕のミーティングには施設長も参加し常に話し合い、全職員、理念のもとにその人らしさを大切に利用者のケアの実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加したり、法人の夏祭りには地域の住民が参加している。広報誌を配布し、施設の日常を理解してもらっている。	事業所はおくunchのみこしや盆踊りなど地域の行事や子ども会の行事に積極的に参加し、事業所の納涼祭には地域の方や家族が多く参加されている。また、地域周辺に事業所の広報誌を配布し事業所への理解を得られるよう取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	人材育成の実習生受け入れは行っているが、地元に対しての貢献はない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議を通してグループホームの現状を理解してもらい、会議で出た意見は可能な場合はサービスに反映するよう努めている。	昨年は年に5回実施されている。メンバーは町内会長・民生委員・包括支援センター・家族・施設長で、グループホームの利用者の現状や行事の様子など報告している。会議では地域との交流促進への意見が出され、子ども会行事への参加などホームのサービス向上につなげている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の訪問相談員の受け入れ。事業所での事故発生等は市担当者へ報告し情報の共有に努めている。	市の介護相談を受け入れており、2.3ヶ月に1度の相談員の訪問で利用者との交流している。そこで事業所へ伝えるべき内容は相談員から事業所へ報告があり、日々のケアに役立っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人として身体拘束ゼロに取り組み、身体拘束廃止委員会を通して職員の意識に働きかけている。	母体法人の身体拘束廃止委員会が開催する研修会に参加している。身体拘束ゼロに向けて言葉による身体拘束も含め職員同士の話し合いは常に行われ、取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人全体、運営推進会議でも議題に取り上げ職員が虐待防止についての意識を強く持つように努めている。		

グループホーム箕望の丘(1丁目)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加し知識を深め、研修内容はファイルして職員が目を通す事が出来る。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明の上、家族が納得できるまで説明を重ねている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は日常的に利用者の話に耳を傾け、家族に対しては面会の折又は年2回の家族会の際に意見を求めている。毎月の便りで苦情・要望を受け付けている旨記載し、話しやすい雰囲気作りに努めている。	年2回9月の敬老会と12月のクリスマス会の際、多くの家族の参加があるため行事のあとを利用して家族会を実施し、意見を求めている。ホームから現状の報告をして要望を聞き出しているが、あまり意見は出てきていない。	更なる向上のため、ホームのサービスや利用者の暮らし方について、各々の家族からの意見や思いを取り入れる工夫を検討することを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議や、毎日の朝・夕のミーティング、職員個人面談の席で意見や提案を聞いている。	職員の意見や提案は毎日の朝・夕のミーティングや月1回の職員会議など日頃から聞く場を設けている。また、個人面談も定期的に行い、直接話す機会を設けている。職員から出た意見や提案はその都度施設長、管理者が検討して、反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は職員の勤務状況を把握し、賞与等に反映している。賞与の際の個人面談の席で職員の話聞く機会を持っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全職員が段階に応じた研修を受けるよう法人としての方針がある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大村市グループホーム連絡協議会の一員として、相互評価、相互研修等を通して自施設の改善に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	他の利用者や職員、新しい環境に徐々に馴染めるように家族と相談しながら工夫し、本人の話に耳を傾けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との話し合いを密にし、暮らしの情報シートを活用し情報収集に努め、信頼関係を作り上げる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームに対する思いを受け止め、これまでの生活を継続していくにはどのような支援が必要か、見極めに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理の場、洗濯物干しやたたみ物を一緒に行い、利用者を支援されるのみの立場におかずお互いを支えあう関係を築いている。もし家族だったらとの思いで共に暮らしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員の支援だけでは不十分な場合には、積極的に協力を求めている。その事で家族が利用者の現状を知る事にもつながっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族面会時は水入らずでくつろげる環境を整え、その時間を大切にもらっている。	家族や知人との面会には制限はなく、楽しく歓談し、くつろげる場づくりに配慮している。家族との外食や法要外出や他施設にいる知人の訪問支援などの関係継続も大切にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性はあるが、一緒に家事活動を行いなじみの関係作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後は関係性が薄らぐが、相談があれば応じます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の心身変化に留意しながら状況の把握に努め、本人の立場に立ってプランの検討をしている。	職員は利用者が思いや意向を話しやすいように居室やリビングで一对一での聞き取りを心がけている。また日々の会話得た情報はケース記録へ記載し意向や希望の把握の参考にしている。意向の表出が困難な利用者の場合は、家族の協力を得て生活歴や趣味などの情報を得て支援に役立てている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人からの聞き取り、家族からの聞き取り、関係機関からの聞き取りを通してこれまでの生活の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の観察の中で利用者の状態を把握し、利用者それぞれの全人的な支援のあり方を検討している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者一人一人に担当者がいる。アセスメントを行いその結果を検討しながら全職員でプランを作成している。その際には家族の意見を求めている。	ケアプランは短期3ヶ月、長期6ヶ月いずれも3つの目標を立て、日々実践状況を記録している。日々のモニタリングは個人記録に記載し、1ヶ月ごとにアセスメントを行い実施状況を確認している。その後、家族に報告し意向を聞き取り、ケアカンファレンスで作成する3ヶ月ごとのケアプランに活かしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員が毎日知り得た利用者の様子をトータルで知る基盤となるので、その時の背景・利用者の発した言葉など分かりやすいように記述している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の希望に応じた帰宅時の支援や、通院時に移送介助を行っています。		

グループホーム箕望の丘(1丁目)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	避難訓練時の消防署の協力要請、訪問理美容サービス利用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所以前の主治医との関係を継続し、日々の情報を共有し健康管理に努める。	以前からの主治医との関係を支援しているが、家族の要望もあり、往診対応の協力医への変更にも応じている。定期受診などは職員が対応し、薬などの変更の場合、担当職員が家族へ連絡して、情報の共有と、健康管理に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人特養看護師との医療連携、配置職員の看護師との連携で健康維持、異常の早期発見に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	まめに面会に出向き病院職員・家族からの情報収集に努め、退院に向けての調整をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	グループホームの方針を家族会で管理者より説明した。重度かについては選択肢の中から利用者・家族の意向に沿った対応をしていく。	去年の課題であった重度化・終末期に関する書類を作成し、9月の家族会にて説明をしている。家族に向けて今度の意向アンケートを実施し、家族の意向を確認している。事業所としての指針をもとに対処するのではなく、家族の意向を尊重して対応することとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命の講習会に参加し、心肺蘇生法を学ぶ。併設施設でAEDを設置した。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間帯、日勤帯の避難訓練を年2回実施している。地域の消防団・隣の事業所に協力を要請している。	年2回避難訓練が実施され、地域の消防団に要請し協力体制を得ている。昼夜を問わず利用者が安全に避難できる方法を全職員が把握している。災害対策マニュアルの中に風・水害に関する資料も整備されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として尊敬の念を持ち、人格を否定しない対応を心がけている。	職員は利用者の立場に立って言動や行動を否定することなく尊厳を重視した支援を行っている。トイレ誘導は様子を細かく見て失禁につながる見落としがないよう対応している。個人情報記載の文書は事務所内に保管されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の思いを尊重し、自由に自己決定できる雰囲気作りに努める。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴の時間帯は一応決めてはいるが、利用者の状況に応じ柔軟に対応している。利用者の生活リズムを把握した上で、出来る限り希望に沿った働きかけを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	これまでの生活習慣に応じた身だしなみやおしゃれが継続して出来るように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立の希望を聞いたり、買い物、調理の作業を行ったりして、楽しみある食事になるよう努めている。	昨年の課題であった管理栄養士による定期的なチェックは年に2回実施されている。食事は、利用者の嚥下のペースに合わせキザミ、トロミなど取り入れている。食材の皮むきやつぎ分けなど利用者ができることは一緒にいき、職員も会話を楽しみながら食事している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	給食日誌で個々の摂取状況を把握し、併設施設の管理栄養士に栄養の全体バランスを年2回チェックしてもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性を知り、個々の状況に応じた支援を行っている。		

グループホーム箕望の丘(1丁目)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、個々の排泄パターンを知り、自尊心を尊重した支援を行っている。	一人ひとりのサインを全職員が把握し排泄チェック表を活用し、さりげない誘導や支援を行っている。外出の際は、必ず事前に職員が下見に行き、トイレの状態など確認している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事に野菜を多く取り入れ、乳製品の摂取、水分の摂取に努め、屋内、ベランダを歩くなどの運動の働きかけもおこなっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一応入浴の時間帯は決めていますが、利用者の心身の状況に応じ気持ちよく入浴できるように支援している。	湯は毎日沸かし、その日の利用者の心身の状態に合わせて、入浴を楽しめるように支援している。脱衣室、浴室の温度差に気を配り、菖蒲湯、柚子湯など季節ごとの入浴の楽しみを演出している。拒否の場合はタイミングをみて声かけ誘導を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の生活リズムを整え、夜間安心して睡眠が取れるよう、心身の状態に留意している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診経過報告を活用し、職員は利用者の内服薬の理解に努めている。利用者の状況に応じた服薬介助を行い、職員は誤薬がないよう細心の注意を払っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	何に充実感を感じ、満足して楽しんでいるかを見極め、持っている力を発揮できる環境を整えるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ほぼ毎日職員と近くのスーパーに食品の買出しに出かけたり、また個人的にほしい物の購入にも可能な限り応じている	利用者の希望で日常的に買い物に出かけたり、季節を感じる菖蒲やコスモスを見に出かけている。また併設して法人施設がある利点を活かして、車いす対応の車両を利用し、本人の希望に沿った外出支援ができるように配慮している。家族とは墓参り、外食など一緒に出かける楽しみも支援している。	

グループホーム箕望の丘(1丁目)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つ事に安心感があったり、小額の買い物ができる金額を所持する事は、家族の了解を得ている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	支援の体制はあるが、希望されることは稀である。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が安心して暮らしやすい状況を作る為、刺激となるものを極力排除している。生活感、季節感を感じる事が出来るように工夫している。	リビングには利用者が作成した毛糸の作品や折り紙、絵が展示されており、季節を感じる草花も生けてある。台所の音や匂いなど五感を刺激し生活感を醸し出している。気になる臭気もなく換気が行き届いており、テレビや職員の声など音も静かで安心して過ごせる空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中にも利用者のくつろげる居場所があり、時には洗濯物をたたみながら会話している姿がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	これまで使用していたなじみの物品等の持込には制限はない。	契約時に居室への持ち込み制限がない事を本人、家族へ説明している。各々仏壇や、調度類、馴染みの物を揃えた居室となっており、その人らしい暮らしが継続できるよう配慮がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の表札、トイレ・浴室の目印を見やすくし、混乱を最小限に抑えている。手すりは必要な場所に設置し安全に暮らせるようにしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスとしての理念を職員全体で理解し、個々のケアの目標の実現に向けて、ミーティング等を通して情報の共有に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加したり、法人の夏祭りには地域の住民が参加している。広報誌を配布し、施設の日常を理解してもらっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	人材育成の実習生受け入れは行っているが、地元に対しての貢献はない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議を通してグループホームの現状を理解してもらい、会議で出た意見は可能な場合はサービスに反映するよう努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の訪問相談員の受け入れ。事業所での事故発生等は市担当者へ報告し情報の共有に努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人として身体拘束ゼロに取り組み、身体拘束廃止委員会を通して職員の意識に働きかけている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人全体、運営推進会議でも議題に取り上げ職員が虐待防止についての意識を強く持つよう努めている。		

グループホーム箕望の丘(2丁目)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加し知識を深め、研修内容はファイルして職員が目を通す事が出来る。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明の上、家族が納得できるまで説明を重ねている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は日常的に利用者の話に耳を傾け、家族に対しては面会の折又は年2回の家族会の際に意見を求めている。毎月の便りで苦情・要望を受け付けている旨記載し、話しやすい雰囲気作りに努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議や、毎日の朝・夕のミーティング、職員個人面談の席で意見や提案を聞いている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は職員の勤務状況を把握し、賞与等に反映している。賞与の際の個人面談の席で職員の話聞く機会を持っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全職員が段階に応じた研修を受けるよう法人としての方針がある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大村市グループホーム連絡協議会の一員として、相互評価、相互研修等を通して自施設の改善に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	他の利用者や職員、新しい環境に徐々に馴染めるように家族と相談しながら工夫し、本人の話に耳を傾けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との話し合いを密にし、暮らしの情報シートを活用し情報収集に努め、信頼関係を作り上げる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームに対する思いを受け止め、これまでの生活を継続していくにはどのような支援が必要か、見極めに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理の場、洗濯物干しやたたみ物を一緒に行い、利用者を支援されるのみの立場におかずお互いを支えあう関係を築いている。もし家族だったらとの思いで共に暮らしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員の支援だけでは不十分な場合には、積極的に協力を求めている。その事で家族が利用者の現状を知る事にもつながっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族面会時は水入らずでくつろげる環境を整え、その時間を大切にもらっている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性はあるが、一緒に家事活動を行いなじみの関係作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所し他施設へ入所となった場合でも、面会に行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の心身変化に留意しながら状況の把握に努め、本人の立場に立ってプランの検討をしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人からの聞き取り、家族からの聞き取り、関係機関からの聞き取りを通してこれまでの生活の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の観察の中で利用者の状態を把握し、利用者それぞれの全人的な支援のあり方を検討している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者一人一人に担当者がいる。アセスメントを行いその結果を検討しながら全職員でプランを作成している。その際には家族の意見を求めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員が毎日知り得た利用者の様子をトータルで知る基盤となるので、その時の背景・利用者の発した言葉など分かりやすいように記述している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の希望に応じた帰宅時の支援や、通院時に移送介助を行っています。		

グループホーム箕望の丘(2丁目)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	避難訓練時の消防署の協力要請、訪問理美容サービス利用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所以前の主治医との関係を継続し、日々の情報を共有し健康管理に努める。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人特養看護師との医療連携、配置職員の看護師との連携で健康維持、異常の早期発見に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	まめに面会に出向き病院職員・家族からの情報収集に努め、退院に向けての調整をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	グループホームの方針を家族会で管理者より説明した。重度かについては選択肢の中から利用者・家族の意向に沿った対応をしていく。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命の講習会に参加し、心肺蘇生法を学ぶ。併設施設でAEDを設置した。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間帯、日勤帯の避難訓練を年2回実施している。地域の消防団・隣の事業所に協力を要請している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として尊敬の念を持ち、人格を否定しない対応を心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の思いを尊重し、自由に自己決定できる雰囲気作りに努める。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴の時間帯は一応決めてはいるが、利用者の状況に応じ柔軟に対応している。利用者の生活リズムを把握した上で、出来る限り希望に沿った働きかけを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	これまでの生活習慣に応じた身だしなみやおしゃれが継続して出来るように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立の希望を聞いたり、買い物、調理の作業を行ったりして、楽しみある食事になるよう努めている。夕食時の飲酒を楽しみにしている利用者もいる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	給食日誌で個々の摂取状況を把握し、併設施設の管理栄養士に栄養の全体バランスを年2回チェックしてもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性を知り、個々の状況に応じた支援を行っている。		

グループホーム箕望の丘(2丁目)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、個々の排泄パターンを知り、自尊心を尊重した支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事に野菜を多く取り入れ、乳製品の摂取、水分の摂取に努め、屋内、ベランダを歩くなどの運動の働きかけもおこなっている。朝食後にはトイレに誘導し排泄の習慣を図っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一応入浴の時間帯は決めているが、利用者の心身の状況に応じ気持ちよく入浴できるように支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の生活リズムを整え、夜間安心して睡眠が取れるよう、心身の状態に留意している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診経過報告を活用し、職員は利用者の内服薬の理解に努めている。利用者の状況に応じた服薬介助を行い、職員は誤薬がないよう細心の注意を払っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	何に充実感を感じ、満足して楽しんでいるかを見極め、持っている力を発揮できる環境を整えるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ほぼ毎日職員と近くのスーパーに食品の買出しに出かけたり、また個人的にほしい物の購入にも可能な限り応じている		

グループホーム箕望の丘(2丁目)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つ事に安心感があったり、小額の買い物ができる金額を所持する事は、家族の了解を得ている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者自身電話したいとの希望あれば対応し、時折、毎月のグループホームの便りに短い本人自筆の手紙を書く事もある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が安心して暮らしやすい状況を作る為、刺激となるものを極力排除している。生活感、季節感を感じる事が出来るようにしつつらえている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中にも利用者のくつろげる居場所があり、時には洗濯物をたたみながら会話している姿がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	これまで使用していたなじみの物品等の持込には制限はない。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の表札、トイレ・浴室の目印を見やすくし、混乱を最小限に抑えている。手すりは必要な場所に設置し安全に暮らせるようにしている。		